

震災復興町民会議・地域懇談会の開催状況(概要)

1 震災復興町民会議

(1)開催状況

開催日時	会場	概 要
7/8(金) 午後2時から 午後4時まで	入谷公民館 (会議室)	○グループ討議 論点①どのような南三陸町に復興したいか(夢・希望、想い) 論点②その実現に向けて何をすべきか(手段、アイデア)
7/22(金) 午後2時から 午後4時30分まで	役場仮庁舎 (会議棟)	○グループ討議 論点①アイデアの磨き上げ(町民が復興の主役になる) 論点②どの施策に重点的に取り組むべきか(期待される効果や達成イメージ)

※会議内容の詳細は、別添のとおり。

(2)今後の予定

- 8月10日 第3回会議(重点施策(町民プロジェクト)の仕上げ)
- 8月下旬 提言書の取りまとめ
- 9月上旬 提言書を町へ提出

2 地域懇談会

(1)開催状況

- ①実施期間 平成23年7月25日(月)から7月31日(日)まで(7日間)
- ②会場及び参加者 延べ23会場 参加者数 484人 (集計中)

開催日時	会場	主な対象者	参加者数	
7/25(月)	午前	南三陸町役場仮庁舎会議室	志津川小学校区(旧志津川小学校区)	14人
		いこいの海・あらと	志津川小学校区(旧荒砥小学校区)	45人
	午後	南三陸町役場仮庁舎会議室	志津川小学校区(旧清水小学校区)	44人
		入谷公民館	入谷小学校区	11人
7/26(火)	午前	志津川海洋青年の家	戸倉小学校区(旧戸倉小学校区)	23人
	午後	寺浜集会所	戸倉小学校区(旧藤浜小学校区)	37人
7/27(水)	午前	登米市役所東和支所会議室	登米市東和地域に避難されている方	6人
		加美町中新田交流センター	加美町に避難されている方	16人
	午後	豊里多目的研修センター	登米市豊里地域に避難されている方	4人
		登米公民館	登米市登米地域に避難されている方	20人
		南方町イオン跡地内集会所	南方イオン跡地仮設住宅にお住まいの方	65人
7/28(木)	午前	旧善王寺小学校	登米市米山地域に避難されている方	8人
	午後	津山若者総合体育館	登米市津山地域に避難されている方	20人
7/29(金)	午前	伊豆沼ウェットランド交流館	栗原市若柳地域に避難されている方	13人
		栗駒みちのく伝創館	栗原市栗駒地域に避難されている方	4人

開催日時		会場	主な対象者	参加者数
7/29(金)	午後	金成延年閣	栗原市金成地域に避難されている方	23人
		花山青少年自然の家	栗原市花山地域に避難されている方	9人
7/30(土)	午前	南三陸町役場仮庁舎会議室	町内全域	26人
	午後	伊里前小学校	伊里前小学校区	16人
		名足小学校	名足小学校区	10人
7/31(日)	午前	仙庄館	大崎市鳴子地域に避難されている方	52人
	午後	農民の家	大崎市鳴子地域に避難されている方	18人
		川渡公民館	大崎市鳴子地域に避難されている方	0人

(2) 主な意見等の概要

町が示した「高台移転」の考え方については、賛同する意見が多く出されたほか、「復興計画の早急な提示」や「復旧・復興事業の早期着手」など、町の取組みスピードを加速すべきとの意見が出された。

①新しいまちづくりの考え方について

- 「住まいを高台に」という考え方については、肯定的な意見が多数であった一方で、具体的な場所の選定や事業の進め方等については、「地域住民の意向を十分配慮すべき」といった意見が出された。
- 町が示した集落の集約移転案については、個別移転案、集約移転案、折衷案とも賛否さまざまな意見が出された。集約移転案について、「道路で区切ったり、段差をつけて造成するなどして旧集落の枠組みを保つ」といった提案も出された。
- 住居の再建については、年齢や経済的な理由などから困難であり、「公営住宅への入居」を希望する発言が多く出された。
- 役場庁舎や病院、学校などの公共施設については、「居住地の近く」といった希望が多々出された一方で、一度に用が足せるように「集約すべき」といった意見も出された。
- 道路や鉄道の早期整備についての意見が多く出され、特に「国道45号、398号の位置を早急に決めるべき」という発言があった。
- 住まいの高所移転に関する事業内容について、「浸水した土地の取扱い」や「移転先の土地の所有関係」などの質問が多数出された。
- 「被災していない町民の意見も聞くべき」といった意見が出された。

②その他

- 漁業の早期再開のため、「漁港の復旧を早急にすべき」といった意見が多数出された。
- 町内に若者や女性などの「雇用の場を確保して欲しい」といった意見が多数出された。
- 災害教訓について、映像・写真などの記録や津波の到達点を示す印などにより、後世へ伝えていくことが重要といった意見が出された。災害遺構の保存について、心情面などの理由で残すべきではないという意見も出された。
- 地域コミュニティについて、元の絆を大事にすべきといった意見が出された一方で、避難所で新しい絆が生まれたので既存のコミュニティにこだわらないといった意見も出された。
- 町の情報がなかなか届かない。今後は、特に「復興に関する町の考え方を積極的に発信すべき」といった意見が出された。